◆地域活動

第４回介類養殖生産者会議

城　間　一　仁

１．目的

平成１３年度より養殖研究グループを対象にトコブシやシラヒゲウニの種苗生産を含む養殖技術、シャコガイ類の養殖技術についての情報交換を行い、養殖生産者の技術向上を目的として開催した。

２．日時

平成１７年３月１１日（金）

３．場所

沖縄市産業交流センター

４．内容

参加者は２５名であった。会議では、まずはじめにトコブシの養殖や種苗生産状況について事前アンケート調査に基づいて伊是名村漁協や伊江漁協等から報告があった。伊江漁協においては養殖技術は確立してきており、種苗生産も順調で、今後、採卵の数を増やす予定とのことだった。伊是名村漁協では、現在殻長２～３㎝のトコブシ８万個を養殖中で、種苗棟においても平成１６年１１月に種苗生産したトコブシ稚貝７０万個を中間育成中であり、殻長２㎝になり次第常時本養殖棟へ移動していくとのことだった。今後の予定としては、次年度には２０万個から３０万個の養殖・出荷、種苗生産では４月には１００万個、１１月には２００万個の生産を目標にするとのことだった。

トコブシの種苗生産では、昨年約５０万個の種苗を台湾へ出荷することもでき、種苗の量産はある程度目処がついており、成貝も１kg当たり３，５００円で販売され、約１００万円の売り上げをあげているところもあるが、まだ需要に追いつかない状況であるため、今後とも生産を増やす必要がある。

続いて水産試験場普及センターから伊是名村漁協や具志川資源活用研究会が実施しているシラヒゲウニの種苗生産及び養殖試験について報告された。伊是名村漁協ではウニの陸上養殖試験に配合飼料を使用し、大量培養できるオゴノリ類で仕上げを実施したが、１０月であったため生殖巣が溶けてしまった。次回は溶けにくい８月に取り上げる予定である。また、同漁協は、次年度には１万から２万個の種苗取り上げを目標にするとの報告もあった。具志川資源活用研究会は約４万個の稚ウニを波板から取り上げ、約５千個のウニを使用して大量のホンダワラが自生する海域で地蒔き式養殖試験を実施している。

シャコガイ類の養殖では糸満漁協介類養殖研究会が行っているヒレジャコやヒメジャコの養殖について報告された。また、伊江漁協からは、導入時の稚貝のサイズが小さく斃死が多いため、配布サイズを大きくして欲しいとの要望もあった。

今回は特別報告として水産試験場の佐多忠夫主任研究員が「ミミガイの成長」と題し、ミミガイが、オゴノリやアナアオサよりトコブシ用配合餌料の方が成長が早いこと、可食部重量がトコブシより大きく、体重２０ｇで６ｇの差があること等の報告があった。また、水産課坂口氏よりシャコガイ種苗価格の改定について現在の一律価格の５円／個から０．７円／㎜（出荷サイズの平均）とする旨の説明があった。

今回から各養殖グループ等に対して事前にアンケート調査を実施し、より生産者が表にたつような会議の持ち方を検討した。今後とも積極的な技術交流を行って養殖技術の向上を図りたい。

第４回介類養殖生産者会議の様子

ミミガイの成長について報告する
佐多主任研究員

トコブシ養殖等について報告する
伊是名村漁協我那覇氏

閉会の挨拶をする瀬底センター長

シャコガイ養殖について報告する
糸満漁協小堀端氏